フオトアゲハの生活史について

楊 義 賢
中華民国台湾省立台北建国中学

Note on the life history of *Agehana maraho*

Yi-Hsieng Yang
Taiwan Provincial Chien-Kuo Senior High School, Republic of China

ま え が き

太平山は中華民国台湾省 中央山脈の北端に位置する海抜約2,000m 近くの山で， フトオアゲハの最初の発見地，烏帽子河原に近く，台湾三大林場の一つとして有名である．宜蘭県同楽国民学校の廖有麟氏は 1966年8月，太平山で種名不明のアゲハチョウ科の終令幼虫を採集飼育していた所， 羽化したのは思いがけなくフトオアゲハ（♀）であった．筆者は廖氏の好意により，同氏の手もとにある資料 および蛹殻と成虫の標本に基づき，フトオアゲハの生活史について研究する機会を得たので，その結果を報告する．日本蝶学界多年の懸案であるフトオアゲハの生活史解明に，この拙文がその一助になれたら，幸甚の至りである．

本文に入るに先立ち，研究資料を提供された廖氏に感謝の意を表する． また本稿の発表について特別のご配慮とご校閲の労をとられた白水隆教授に厚くお礼を申し上げる． なお食草の同定をして下さった恩師台湾大学農学院森林系主任の劉棠瑞教授にも深く謝意を表する．

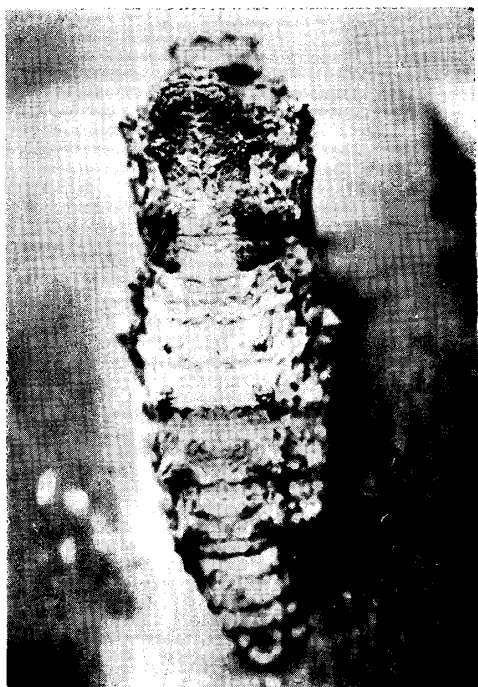
食 草

廖氏が採集したフトオアゲハの幼虫は タイワンサッサフラス *Sassafras randaiense* の葉の表面に 静止していたもので，同氏の話によれば，そのとき葉の両側縁には数条の吐絲が張られ， その葉は表面を内側にして湾曲し，幼虫はその中で足がかりを作り，主脈に沿い，頭を外に向けて位置していた．

ちなみにタイワンサッサフラス[1]は台湾中北部の 中央山脈に分布し，海抜 900〜2,400mの高地に生育する台湾固有種である．同属の樹種は中国大陸の浙江，江西，湖北一帯に産する *S. tzumu*[2] と北米東部に産する *S. offinale*[3] とを合わせて計3種しかない．このような分布状態とフトオアゲハの過去の採集記録とを照らし合わせてみると，タイワンサッサフラスはフトオアゲハの食草であり得るように思われる．然しタイワンサッサフラスはクス科植物で，アゲハチョウ科の主要食草であるミカン科植物とは類縁が遠く， 食草については今の所早急に判断を下し得ない．

終令幼虫はアゲハ型で，体長 60mm に達し，概形，色彩ともに日本産オナガアゲハ[4]の幼虫に似ているが，斑紋が異なる．すなわち背面は緑色で腹面は褐色を呈し， 後胸背面には「ハ」の字型に並んだ濃褐色の眼状紋が２つあり，中に２本の白い曲線が走り，その側縁を淡褐色に縁どられている． 第１腹節後縁には淡褐色帯があり，第２腹節の亜背には三角形の濃褐色斑紋が後方に突き出し，その先端は同節の中央部に及ぶ． 腹面の地色は第４腹節から幅広い斜帯となり，斜後上方に伸び， 第５〜６腹節の亜背線をへて，下方にさがり，再び腹面に連なり，第５〜６腹節の側面にかけて緑色の雲型模様を残し，外縁は濃褐色で縁どられている． なお臭角は採集当時に廖氏が手指で何回か幼虫に刺激をあたえたがみられなかった．

蛹

蛹の概形と色彩は 羽化の前後大した差異がなく，一見した所アゲハチョウ属に似ているが，体表は粗雑な感じで，

フトオアゲハの蛹殼

頭部の突起と中胸背部の突起は低く，他のアゲハチョウ科の蛹に類のない気門上突起と亜背突起とがあり，この両突起列の中間線上に第2腹節からひび割れしたような割れ目線があって，甚だ特徴的である．気門上突起は第2～3腹節の気門直後にあり，先端は鈍いいぼ状である．亜背突起も気門上突起と同じく，先端鈍く，いぼ状を呈し，特に第4～6腹節のは大きい．色彩は淡褐色，幼虫期に見られる斑紋の痕跡がやや顕著に残り，その部分だけ少し黒味がかっている．体長約35 mm，幅約13 mm，帯蛹である．

発　生　経　過

越冬態は蛹で，蛹期は割に長く8カ月に及ぶ．廖氏の飼育経過を示すと，8月20日採集された終令幼虫は同月23日前蛹になり，前蛹の時期短く，1日間だけで，同月24日蛹化，翌年5月6日羽化．

白水 (1960)[5] は5月，7～8月の年2回程度の発生ではないかと推察したが，上述の飼育経過はこの推察を裏づけるように思われる．

その他の時期は観察できなかったので，まだ不明であるが，後日機会があれば更めて行なう予定である．

なお成虫の尾状突起にある2本の翅脈間の黒色紋はその上端やや不鮮明で，ぼけて見えることを附記する．

文　献

（1） 劉棠瑞 (1960)：台湾木本植物図誌（台北）．
（2） 陳　嵘 (1937)：中国樹木分類学（南京）．
（3） Hui-Lin Li (1963): Woody Flora of Taiwan (Pennsylvania).
（4） 白水　隆，原　章 (1960)：原色日本蝶類幼虫大図鑑（大阪）．
（5） 白水　隆 (1960)：原色台湾蝶類大図鑑（大阪）．

SUMMARY

A larva of *Agehana maraho* was discovered on the upper surface of a leaf of *Sassafras randaiense*, which may be its food-plant, by Mr. Liao at Taipinshan, Ilan Hsien, Taiwan. The results obtained can be summarized as follows:

1. The full-grown larva, about 60mm long, which was collected on August 20, 1966, pupated on August 24, hibernated in pupal stage, and emerged on May 6, 1967.
2. In *Agehana maraho*, the larva belongs to *Papilio* type, has some resemblance in shape and colour to that of *Papilio macilentus*, but can be noticed some difference in their stripes.
3. The pupa, about 35 mm long, seems a kind of *Papilio* too. But the pupal skin with some dorso-spiracular tubercles and subdorsal tubercles, which can not be found in the other Papilio-nidae, feels rough.